

## 平成29年度 第1回 長浜市子ども・子育て会議 要点録

日 時 平成29年7月7日（金）午後1時30分～午後3時10分  
場 所 長浜市役所3階 3-Bコミュニティルーム  
出席者 西川委員、大橋委員、井関委員、富岡委員、杉山委員、宮崎委員、田中委員、  
野田委員、長委員、吉井委員、山仲委員、池田委員（12人）  
【事務局】健康福祉部長：藤居、幼児課：横田、森、西村  
子育て支援課：鶴飼、益田、前嶋、涌井  
欠席者 坂本委員、前田委員、熊谷委員（3人）  
傍聴者 なし

《開会》

事務局

それでは定刻になりましたので、ただ今から「平成29年度第1回長浜市子ども・子育て会議」を開催します。

本日の傍聴者はおられませんが、「附属機関等の会議の公開等に関する要綱」に基づき、本会議は公開となっておりますのでご了承願います。

それでは、初めに団体からの推薦で委員の交代がありましたので、ご紹介させていただきます。

《富岡委員、杉山委員、坂本委員、田中委員を紹介》

事務局

続きまして、健康福祉部長よりあいさつ申し上げます。

《部長あいさつ》

事務局

では、次に委員紹介ですが、委員の交代もありましたので、お一人ずつ簡単に自己紹介をお願いします。

《自己紹介》

事務局

続いて、事務局の紹介をさせていただきます。

《事務局自己紹介》

事務局

本日の資料の確認をさせていただきます。

《配布資料の確認》

また、本日、坂本委員、前田委員、熊谷委員の三人はご欠席の連絡をいただいておりますが本会議は「子ども・子育て会議規則第4条第3項」に規定する過半数の出席がありますので、成立することをここにご報告いたします。

では、議事に入りたいと思います。「子ども・子育て会議規則第4条第2項」

により「会長は会議の議長となる」とありますので、ここからの進行は西川会長にお願いいたします。

会長

皆さんこんにちは。

この会議は、冒頭でのあいさつにもありましたように、平成27年度に策定された子ども・子育て支援事業計画に基づき施策をやっておられるかどうかをチェックする場です。長浜市さんは丁寧にやっておられて、昨年度の3月に数値の見直しをご説明していただきましたが、今回変更になったところを含め、もう一度ご説明していただけるということです。

では、(1)長浜市子ども・子育て支援事業計画の進捗管理について事務局から説明をお願いします。

事務局

《主に子育て支援課、幼児課の事業について資料3、資料4により説明》

会長

ありがとうございます。

私から意見ですが、評価において、数値だけでなく質的な評価もしていく必要があると思います。例えば、研修会の開催数や参加者数だけの目標達成だけではなく、その中から見える課題に対する解決策。これは長浜市の質的な向上につながると思います。

もう一点、進捗状況を全部見るのは大変ですので、他の市町でやっている例をあげますと、基本目標ごとに中核となる事業を重点的に見ていくという方法です。この方法ですと、我々も見やすくなります。

委員

先ほど説明のあった給食費の実質無料化の事業費は市全体に占める割合はどれくらいなのか。

もう一点、子育て支援事業をしていくうえで、長浜市の特色は何かお聞きします。

会長

2つ目の質問は、私が先ほど言った重点的に見ていくことと重なりますね。

事務局

給食費の実質無料化と多子世帯の保育料の軽減だけですと事業費は5億円です。市全体の予算が500億円なので1%を占めているといった計算になります。

会長

長浜市の特色についてはどうですか。

## 事務局

今の給食費実質無料化、多子世帯の保育料軽減も、保護者だけでなく、市民全体で支えることが特色です。また、妊娠期から学齢期まで切れ目のない支援を行っていくということでは、子育てコンシェルジュの設置ですとか、一時預かり事業のパパママ・リフレッシュ託児など、特に産前産後のケアを充実させていることが特色です。今後は地域で子育てを支えていくことも加えていきたいと思います。

## 委員

事業を支えるには、支える人の資質も大事になってきますが、そのあたりはどうでしょうか。また、待機児童の今後の予測についてもお聞きします。

## 事務局

・放課後児童クラブに関しては、支援員の研修受講を推進していますし、入所児童数に応じて支援員の配置を行っています。また、資格を持たない補助員の応援により運営を行っています。滋賀文教短期大学が行っておられる子育て支援事業「ぶんぶんひろば」にも参加しながら、支援員の勉強の場としていきたいと思っておりますし、生涯学習課が行っている子育てサポーター養成講座では、地域の人の資質向上を図っているところです。

・保育所の待機児童について申しますと、入所がかなわなかった人もいらっしゃいます。少子化と、保育所入所の需要の伸びを見ながら予測していますが、まだあと5年程度は保育需要は高く推移するものと考えています。0～2歳入所は相変わらずニーズが高いことから、まだ待機児童解消の基盤を作る必要があると認識していますし、幼稚園で乳児を預かることも必要だと考えて実施を準備しているところです。

## 委員

国でも、いろんなテーマをいろんなセッションでやっておられるが、市では横のつながりの機能があるのかお聞きしたい。

二点目は、企業はどこも人材不足ということですが、今後、海外の人材を受け入れることが必要になってくると、企業内託児が必然となってきます。そのあたりをお聞きしたいのと、三点目は、保育士の人材確保について、保育士の募集についてなど、民間と公設の連携がとれないかということをお尋ねします。

## 事務局

・2年前から立ち上げた長浜市子ども子育て・少子化対策推進本部を部局横断的に実施しています。今年度はさらにプロジェクトという形をとって横のつながりを密にしています。

・企業内託児所についてですが、H27に子ども・子育て支援新制度が制定され、施設整備や運営補助を目的に国の補助制度ができました。市では1施設が

該当となっています。

市では施設整備等の補助はありませんので、国の補助制度の周知に努めています。

委員

ベトナムからたくさんの労働者が来る可能性があるなど、ベトナム語の取得など新たなテーマが出てきている。企業内託児所は喫緊の課題であることを市も認識していただきたい。

事務局

高齢者の介護事業所での外国人の受入については、日本語検定を受けた人となっていますので、事業所とはそのあたりも連携をとっていく必要があると思います。

委員

保育士養成の学校に勤めていて、県内で同じような学校の集まりがあり、話す機会がありました。保育士確保には、給料面も課題で、滋賀県に比べ京都府の賃金が高いので、大津市ではそちらに人材が流れてしまうということでした。また、保育士免許はとるが保育士にはならない人が増えていることについては、保育実習に行っても保育士としての魅力を感じないし、責任面においての負担が大きいことも原因の一つだと話しておられました。

会長

先ほどの委員の3つ目の質問と重なる部分がありますね。先の説明では、市も保育士の奨学金の補助を始められるということですが、県もあります、さらに市もということですか。

事務局

県は奨学金の貸付に対する補助ですし、市は奨学金の返還に関する補助ですので視点が異なります。

先ほどの委員の3つ目の質問に対してですが、民間も、公設も人材確保には苦勞していますが、採用の募集を一緒に行うということについては、経営者が違うことなどから難しいと思います。

委員

保育士の賃金面としては、長浜市は近隣の市町と比べて低いということはないと思いますし、採用も新卒だけでなく、経験者枠もあり広げていただいていますので、募集が少ないということではないと思います。それよりも、保育士になってからの保護者への対応や、仕事と家庭との両立など負担が増大していると聞いています。もちろん保護者への対応など園長、主任がフォローしてくださるけど、その他のフォローできる面があってもいいのではな

いかと思います。

会長

保育士をどう支えていくかということも課題ですね。貴重なご意見をありがとうございました。

時間もあまりありませんので、次にいきたいと思いますが、何かお気づきの点などありましたら、その時にお願いします。

(2) 長浜市子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直しについて事務局から説明をお願いします。

事務局

《資料5について説明》

会長

乳幼児の数と放課後児童クラブの利用者が増えていますが、その確保について努力されているということです。待機児童が出ないように29年度以前から考えておられますが、引き続きお願いしたいですね。

続きまして、次第5 報告事項について事務局からお願いします。

事務局

《資料8、資料6により説明》

会長

広く周知していただくということでお願いしたいと思います。では、事務局にお返しします。

事務局

ありがとうございました。

閉会にあたりまして、課長からお礼を申し上げます。

鵜飼課長

本日はありがとうございました。

評価において数値目標の達成だけで判断せず、その背景にある課題を掴んでおく、また、計画の目標について、全部ではなく重点的に見ていくといったことも次回の資料作成に反映させていきたいと思います。

委員の皆さまには今後ともそれぞれのお立場からのご意見等をいただきたいと思います。

本日は長時間にわたりありがとうございました。

(閉会)